

総 評

審査委員長 恒 川 和 久 (名古屋大学 教授)

今年度の愛知建築賞には6点の応募があった。例年に比べ応募数が少なかったことは、愛知県における建築活動の広がりや、設計者の挑戦的な試みを社会に発信していくという本賞の趣旨から見ても、やや残念に感じられた。一方で、応募作品はいずれも水準が高く、公共建築、教育施設、企業施設など、それぞれ異なる立場から今日的な課題に応答しようとする意欲的な提案が見られたことは評価したい。

審査では、審査委員一同が、単なる意匠的完成度だけではなく、建築が地域や利用者に対してどのような関係性を築いているか、環境や運営とどのように結びついているかという視点を重視した。近年は、脱炭素やウェルビーイング、地域連

携など、建築に求められる役割が急速に広がっており、建築単体だけで評価することが難しくなっている。そうした中で、空間の質と社会性とを高い次元で両立させているかどうか、重要な判断基準となった。

最終的に選出された各作品は、用途も規模も異なるが、それぞれが周辺環境や利用者との関係を丁寧に読み取りながら、建築としての独自性を獲得していた点が共通している。応募数の減少は気掛かりではあるものの、今回の受賞作品群からは、愛知地域における建築文化の厚みと可能性を改めて感じ取ることができた。

会 長 賞

犬山市立橋五子ども未来園

愛知県犬山市

株式会社安井建築設計事務所 名古屋事務所



設計意図

田園地に建つ「ヒミツ基地」のような保育園

本施設は、市内の既存2園を統合して新設された犬山市で約40年ぶりとなる公立保育園である。穏やかな山並みが広がる田園地に囲まれた豊かな立地環境を活かし、大らかなフラットルーフの下で屋内外の様々な遊び・学びの場が途切れることなくつながる、平屋建て園舎の計画とした。田園風景と調和する水平基調の大屋根「フラットルーフ」からは、建物内に光や風を導くゲート状の屋根「ゲートルーフ」がいくつも立ち上がり、その一部は展望テラスや設備機器置場といった機能も有している。地域景観との調和や地球環境との共生を尊重したこれら2種類の屋根の組合せにより、シンプルながらも立体感のある印象的な外観デザインを生み出し、この地で育つ犬山の子ども達が、日々の登園や生活に楽しみやワクワクを感じることもできる、「ヒミツ基地」のような保育園の実現を目指した。



審査委員長講評（名古屋大学 教授 恒川和久）

田園風景の中に低く伸びやかに広がる本作品は、周辺と一体となったランドスケープとしての魅力を備えている。既存2園を統合した大規模な保育園であるが、その大きさを感じさせないのは、平屋を基調とした構成と、複数の屋根が柔らかく浮かび上がるような外観デザインによるところが大きい。園舎内部では、「しずかなにわ」「ぐるぐる縁側」「やねしたテラス」など、多様な居場所が連続的に配置され、子どもたちが自ら居場所を選びながら活動できる環境が丁寧につくられている。特に遊戯室は、トップライトから柔らかい光を取

り込みながら、子どもたちの身体活動を木質系のR形に連続する壁・天井が包み込む空間となっており、保育施設に求められる安心感と高揚感とを見事に両立させている。また、環境性能への配慮も徹底されており、深い軒や自然換気、Low-E ガラス、大屋根への太陽光パネル設置など、独自の建築的な工夫を通して「ZEB」を実現している点も高く評価された。保育施設という用途において、単なる機能性や安全性を超え、地域の風景や子どもの身体感覚に深く寄り添った建築として、高い完成度を示した作品である。

優秀賞

島田市役所新庁舎

静岡県島田市

一級建築士事務所 株式会社石本建築事務所名古屋オフィス



設計意図

本計画は、2度の市町村合併により増加した職員数に対して手狭となった旧庁舎の課題を受け、分散していた行政機能を集約し、市民サービスの向上を図る現地建替計画です。計画地である島田市は、南アルプスを源流とする大井川流域に位置し、豊かな自然環境に恵まれています。温暖な気候と安定した風環境、扇状地に広がる豊富な地下水、そして市域の大半を占める森

林資源など、自然エネルギーの活用に適した地域特性を有しています。本計画では、こうした地域資源を最大限に活かし、省CO₂技術を積極的に導入することで、低炭素化と持続的発展を両立する、新たな環境まちづくりの拠点を目指しました。その実現に向けて、「かぜ」「みず」「もく」「ひと」という4つのテーマを掲げ、地域と調和した庁舎づくりに取り組んでいます。

審査委員長講評

本作品は、市町村合併によって分散していた行政機能を集約し、市民サービスの向上を図る拠点として整備された庁舎である。大井川流域の豊かな自然環境を背景に、「かぜ」「みず」「もく」「ひと」という4つのテーマを掲げながら、環境共生型庁舎としてのあり方を高い次元で追求している点が印象的であった。

特に、深い庇と外装ブラインドによる日射制御、地下水熱を利用した「せせらぎ空調システム」、自然換気を促す断面構成など、環境技術と建築空間とを一体的に成立させている点は高く評価された。本作品は、近年の公共建築の中

でも極めて高い技術力を示している。また、庁舎前広場や歩行者空間では、市民が日常的に滞在し、イベントなどを楽しむ様子が見え、従来の「行政の器」を超え、市民にとって新たな居場所となっていることも評価できる。一方で、中央ボイドを核とした新しい働き方や部局間交流の実際の様子が、応募資料の中でもう少し具体的に示されると、空間提案の有効性がさらに伝わったように思われる。防災拠点性、環境性能、市民交流機能を高いレベルで統合した、先進的な庁舎建築である。

奨励賞

豊田自動織機刈谷工場厚生棟

愛知県刈谷市

株式会社日建設一級建築士事務所



設計意図

豊田自動織機創立100周年事業の一環であり、刈谷工場の新たな顔となる厚生棟の新築計画です。敷地内に分散していた施設を集約し、中庭と神社の豊かな緑を享受できる配置としました。最大の特徴は、自然を視覚的に取り込む建築的工夫です。南側の深い庇で日射を遮断しつつ、軒天にアルミ製スパンドレルを採用することで中庭の緑を反射させ、内部へ風景を拡張させています。さらに執務空間のガラス間仕切りも緑を反

射し、建物全体で自然を感じられる設計としました。断面計画では、隣接工場から3階へのフラットなアクセスを実現するため下層の階高を極力圧縮し、天井レスとすることで圧迫感の軽減とメンテナンス性・防災性向上を両立しています。3階食堂は杉仕上げの「のこぎり屋根」による安定した採光と自然換気を備え、食事だけでなくABW対応のワークプレイスとしても機能させることで施設の稼働率を高めています。